

# デジタル機器を利用した広島大学学生の 英語学習実態に関する調査

榎 田 一 路  
森 田 光 宏  
阪 上 辰 也  
鬼 田 崇 作

広島大学外国語教育研究センター

## 1. はじめに

筆者らは、広島大学の1年生約1,000名を対象に、個人所有のデジタル機器による英語学習の実態を把握するためのアンケート調査を実施した。本稿では、その目的と概要、および結果について報告する。

## 2. 本調査の背景と目的

1990年代から始まったパソコンとインターネット環境の普及を経て、2000年代から現在にかけて、モバイルネットワーク環境の普及と、スマートフォンやタブレットを始めとするデジタル機器の多様化が進みつつある。これらのデジタル機器は、かつてのカセットテープ、ビデオテープなどのパッケージメディアに代わり、ICTを活用した外国語学習に用いられるようになりつつある。ウェブ上では、無料のものを含め、膨大な量の外国語の教材やコンテンツが存在しており、時間や場所を問わず、生の外国語に手軽に触れられるようになった。

授業時間の限られた大学英語教育においては、こうしたデジタル機器を授業時間外に積極的に活用することが、英語力の向上に効果的であると考えられる。英語学習においては、継続的な学習と、学習の絶対量の確保が重要であるが、多くの大学・学部において英語の授業が週に2回程度、1・2年生対象の教養教育科目として提供されるのみに過ぎない現状においては、これらの確保が課題とされてきた。デジタル機器による授業外学習を、そうした教室での対面授業と連動させることにより、継続的な学習が促されるとともに、学習の絶対量が確保されることが期待される。

筆者らの勤務する広島大学でも、インターネット環境とデジタル機器を活用した様々な英語教育の取り組みが行われてきた。2005年度からは「キャンパス・ユビキタス・プロジェクト」にかかる英語教育実践が、経済学部1年生を対象に試行的に実施された(榎田・前田・磯田・田頭2006, 2007, 2008, 2009)。このプロジェクトでは教科書、授業進度、テスト、評価規準が統一され、CALL教室とWBT(Web-Based Training)を活用した、一斉指導と個別学習の連携が行われた。この取り組みは2011年度から全学に拡充され、教養教育英語8単位化対象主専攻プログラムの1年生約1,000名を対象とした広島大学外国語教育研究センター「新カリキュラムに伴う学生の英語力向上ワーキンググループ」(英語力向上WG)による教育実践として、現在も展開されている。この新カリキュラムでは、オンライン学習による授業科目「コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ」(語彙・文法中心)が開設され、そこで使用されるWBT教材は対面授業科目「コミュニケーションⅠB・ⅡB」(リーディング・リスニング中心)と連動している。

これと同時に本学では、デジタル機器とモバイルインターネットの普及に対応した、新たな自学自習用教材の開発と配信も行われている。WBTによる教材コンテンツとして、2001年には「外国語学習お好みひろば」、2007年にはTOEIC®テスト対策のTOEIC® Practice Questionsなどが開発・配信されている。また、自主制作のポッドキャスト番組として、2008年からはHiroshima University's English Podcast、2012年からはEnglish News Weeklyの制作と配信が開始された。開始当時はまだ新しいメディアであったこれらのポッドキャスト番組は、スマートフォンやタブレットなどのデジタル機器と、モバイルインターネットの普及を背景に、多種多様なプラットフォームに対応した教材として、現在も制作と配信が継続されている<sup>1)</sup>。配信した番組数は2016年12月末現在で706本にのぼり<sup>2)</sup>、2016年1月6日にはiTunes StoreのPodcastランキング(教育)で最高34位を記録するなど、国内の大学ではほぼ唯一の継続的な配信の取り組みとして認知されている。

ICT機器を活用したこれらの英語教育の取り組みおよび自学自習用教材の開発・配信は、学内のCALL教室の環境整備と連動して展開されてきたが、その一方で、学習者所有のモバイル機器を利用したMALL (Mobile Assisted Language Learning)を指向した動きも見られる。2015年度入学生より、ノートパソコンの必携化が開始され、BYOD (Bring Your Own Device)に対応した学内無線LAN環境の整備も進みつつある。そのような中で、これらの環境を活用した英語教育実践も試行されつつある(榎田、2016)。

こうした教育環境の整備を効果的に進めるためには、本学学生がどの程度、個人所有のモバイル機器やインフラを英語学習に活用しているか、その実態を把握しておく必要がある。榎田(2008)では、上述のポッドキャスト配信開始にかかる予備調査として、広島県内の2大学の学生298名を対象に、ポッドキャスト関連のデジタル機器の利用実態を調査した。その結果、iPodやウォークマン等のデジタル・オーディオ・プレーヤー(DAP)、および音楽再生機能付き携帯電話等の音楽再生機能付きデジタル機器の所有率は66%であったが、一方でポッドキャスト番組の利用率は約10%に留まり、ポッドキャストというメディアに対する認知度は極めて低かった。当時、ポッドキャストをDAPで利用するためには、パソコンとDAPを接続し、パソコンにダウンロードした番組ファイル(MP3、MP4形式など)をDAPにコピーする必要があった。現在では番組をスマートフォンやタブレットに直接ダウンロードすることが可能となった。同調査から8年が経過し、ポッドキャストを始めとする多くのオンラインコンテンツやアプリケーション(以下、アプリ)が手軽に利用できるようになった現在、最新の活用状況を調査する意義は大きいと考えられる。

以上の背景を踏まえ、大学生におけるデジタルインフラの普及率、および個人所有のデジタル機器を活用した授業時間外英語学習の実態を探り、大学英語教育においてモバイル環境を活用した学習をさらに推進するため、本学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。次章では、その概要を説明する。

### 3. 調査の概要

対象としたのは、教養教育英語必修科目「コミュニケーションIB」を履修している広島大学の1年生約1,000名である。今回、大規模な調査を実施するにあたり、前述の教養教育英語8単位化対象主専攻プログラムの1年生を調査の対象とした。アンケートは、Google Formsを用いて実施され、学生はオンラインで回答を行った。このアンケートは、2016年6月の同授業時間内に、担当教員9名の協力を得て行われた。

今回の調査で実施したアンケートの項目を【Appendix】に示した。Google Forms 上のアンケート項目は計 11 項目であるが、項目 1. および 11. は学生番号記入欄のため、【Appendix】ではこれらを省いた 9 項目を示している（学生番号を 2 度記入するよう求めたのは、記入ミス防止のためである）。

質問の内訳は、2～6. がデジタル機器を用いた英語学習に関するもの、7～10. が広島大学のポッドキャストに関するもの、そして 11. が今後使ってみたいコンテンツやアプリに関するものとなっている。2. の「ノートパソコン」では、2016 年度入学生の必携化パソコンの要件を満たすモデルとして広島大学消費生活協同組合により選定された MacBook Air（アップル）と Microsoft Surface（マイクロソフト）が、例に挙げられている。特に Microsoft Surface は、タブレットとしても利用できるが、必携化された Windows のノートパソコンとして、iPad や Android タブレットと区別するため、本項目においては「ノートパソコン」として回答するよう配慮がなされた。3. で記されている「ぎゅっと e」, 「オンライン単語学習」および「サッと英作！」<sup>3)</sup> は、アンケートの対象クラスにおいて WBT 教材として利用されており、学生は日頃からこれらに取り組むことが求められているため、3. における英語学習から除外することとした。4. と 9. と 10. は自由記述、それ以外は選択式とした。

#### 4. 調査の結果

本調査の結果、767 名から有効回答を得た。以下、各項目の集計結果を報告する。

まず、項目 2. の集計結果を図 1 に示す。

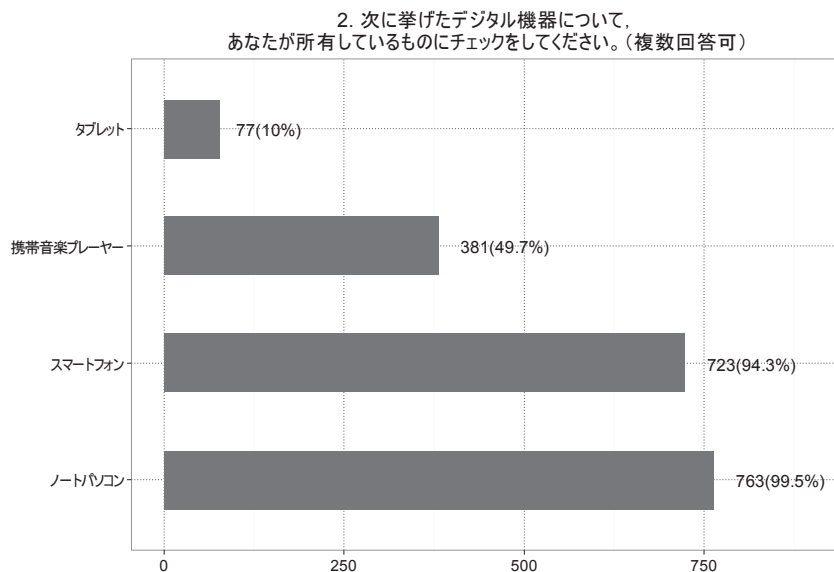


図 1 項目 2. の集計結果

ノートパソコンは必携化されているため、所有率はほぼ 100% となった。スマートフォンについては、約 95% という高い普及率が確認された反面、タブレットは 10% に留まった<sup>4)</sup>。DAP もほぼ半数の学生が所有しており、デジタルメディアやオンラインコンテンツ、アプリを使用する

ための環境はほぼ整っていると考えられる。

次に、項目 3. の結果を図 2 に示す。

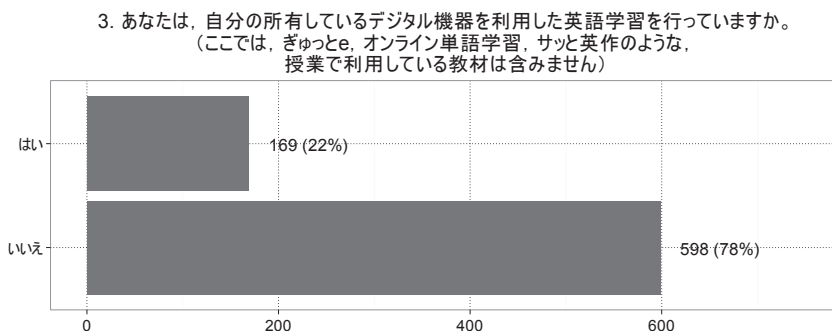


図2 項目 3. の集計結果

結果は「はい」が 169 名 (22%)、「いいえ」が 598 名 (78%) であり、項目 2. で示されたデジタル機器の高い普及率にもかかわらず、それらを英語学習に利用している学生は 2 割に過ぎなかった。次の 4. では、3. で「はい」と答えた学生に対し、具体的なオンラインコンテンツやアプリの名前を回答するように求めた。この結果を表 1 に示す。

表 1 項目 4. の主な回答

4. あなたは、英語学習のためにどのようなオンラインコンテンツやアプリを使っていますか。自由に記してください。(例：TED, YouTube, ポッドキャストなど。3. で「いいえ」を選んだ場合は、特になし、と書いてください)	
動画サイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ YouTube (45)</li> <li>・ TED (33)</li> <li>・ TEDiSUB</li> <li>・ English Central</li> </ul>
ポッドキャスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Podcast (18)</li> <li>・ Hiroshima University's English Podcast (2)</li> </ul>
ニュースメディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BBC (3)</li> <li>・ VOA</li> <li>・ Aljazeera English</li> <li>・ Learn ABC</li> <li>・ RADIO JAPAN</li> <li>・ NHK ラジオ</li> <li>・ スマホアプリの英語ニュース</li> <li>・ 英字ニュース</li> </ul>

TOEIC 対策用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TOEIC のアプリ</li> <li>・ TOEIC 対策</li> <li>・ TOEIC 単語のアプリ</li> <li>・ TOEIC オンライン</li> </ul>
単語学習用アプリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ mikan (3)</li> <li>・ キクタン (2)</li> <li>・ 単語アプリ (2)</li> <li>・ エクストリーム英単語 (エクタン)</li> <li>・ 英単語クイズ</li> <li>・ 英単語サブリ</li> <li>・ 新英単語 2000</li> </ul>
DAP および音楽アプリによるリスニング教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材の音源をミュージックに入れて聞く (2)</li> <li>・ iPod で英文を聞く</li> <li>・ Music (iOS アプリ)</li> <li>・ Walkman アプリ</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CD (3)</li> <li>・ 映画 (2)</li> <li>・ 洋楽</li> <li>・ iKnow</li> <li>・ zuknow</li> <li>・ POLYGLOTS</li> <li>・ 英文法 750 (英語学習アプリ)</li> <li>・ iPhone App</li> <li>・ 翻訳アプリ</li> <li>・ 辞書 (アプリ)</li> <li>・ 英語版でゲームをするなど</li> <li>・ レアジョブ</li> <li>・ スピードラーニング</li> <li>・ インターネットラジオ</li> <li>・ ラジオ</li> <li>・ 英語の本など</li> </ul>

Google Forms 上で、すべての回答欄の記入を必須としたため、3. で「いいえ」を選んだ場合は「特になし」と記すように求めた。表 1 では、この「特になし」は除外した。また「ぎゅっと e」等、授業で使用されている WBT 教材を回答したものも除外している。回答者が複数見られたものは、括弧内にその数字を示した。これらをまとめると、YouTube や TED などの動画サイト、ポッドキャスト、VOA、BBC、Al Jazeera などのニュースメディア、TOEIC 対策用教材、「mikan」、「キクタン」、「エクタン」といった単語学習用アプリ、さらに音楽プレーヤーおよび音楽アプリによるリスニング教材の回答が多く見られた。

次に、項目 5. の結果を図 3 に示す。

5. あなたが英語学習のために使っている  
デジタル機器にチェックをしてください。(複数回答可)

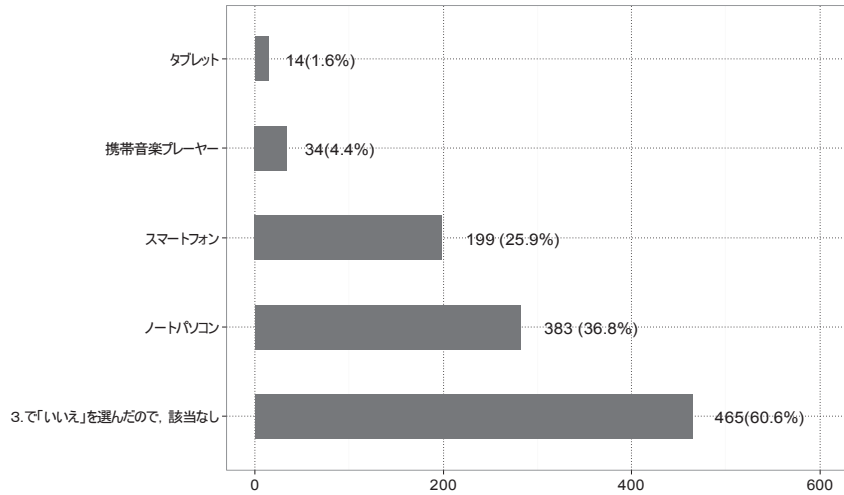


図3 項目 5. の集計結果

項目 3. で約 8 割の学生が「いいえ」と回答しているのに対し、ここで「3. で『いいえ』を選んだので、該当なし」という回答が 6 割であった。すなわち 3. で「デジタル機器を英語学習に利用していない」と回答した学生のうち、約 2 割の学生が、4. で具体的な機器を回答していることになり、これらの学生は授業用教材の学習を念頭において回答したものと考えられる。この点に注意しつつ結果をまとめると、最も多い順にノートパソコン、スマートフォン、DAP、タブレットという結果となった。

次に、項目 6. の結果を図 4 に示す。

6. あなたは、週にどのぐらいの時間、  
デジタル機器を使った英語学習をしていますか。  
(例:月に1時間の場合は週に15分とします)

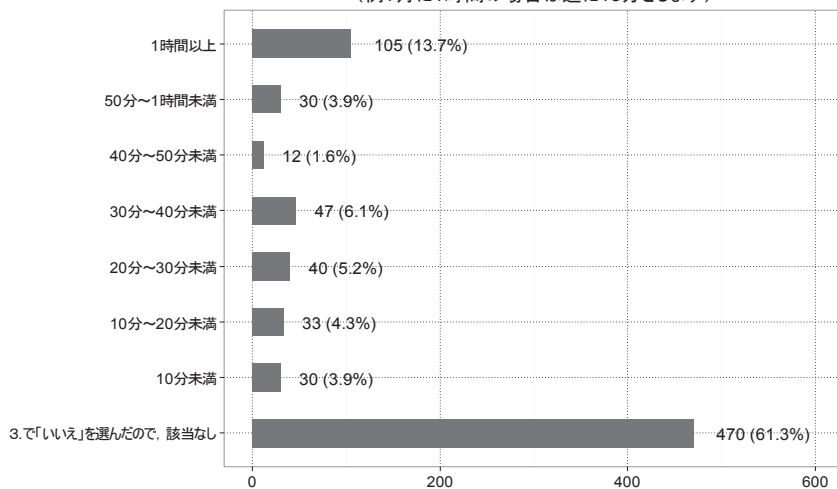


図4 項目 6. の集計結果

項目 5.と同様に、ここでも約 6 割の学生が「3.で『いいえ』を選んだので、該当なし」と回答した。3.で「デジタル機器を英語学習に利用していない」と回答した学生のうち、ここで学習時間を回答した約 2 割の学生は、授業で使用されている WBT 教材の学習時間を回答したものと考えられる。この点に注意しつつ、回答の多かった順に結果をまとめると、1 時間以上（105 名、13.7%）、30 分～40 分未満（47 名、6.1%）、20 分～30 分未満（40 名、5.2%）、10 分～20 分未満（33 名、4.3%）、50 分～1 時間未満（30 名、3.9%）、10 分未満（30 名、3.9%）、40 分～50 分未満（12 名、1.6%）であった。

次に、広島大学の英語学習用ポッドキャストに関する項目 7.の結果を図 5 に示す。

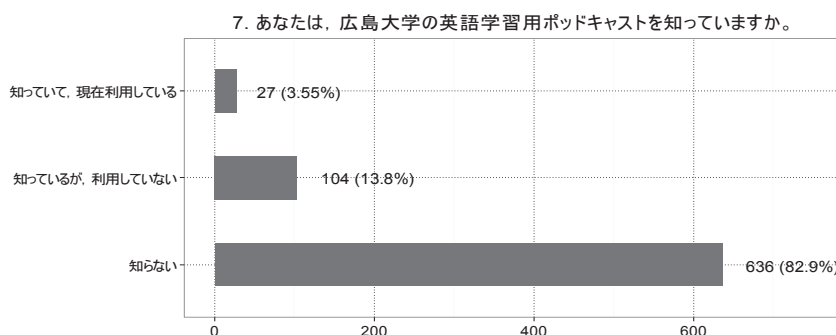


図5 項目 7. の集計結果

回答の多かった順に、「知らない」（636 名、82.9%）、「知っているが、利用していない」（104 名、13.8%）、「知っていて、現在利用している」（27 名、3.5%）という結果であった。前述のとおり、2008 年に配信を開始して 8 年以上が経過するが、iTunes Store のランキングに見られる知名度にもかかわらず、学内での認知度は 2 割を切る結果となった。項目 8. では、広島大学の英語学習用ポッドキャストを知るきっかけとなった媒体について尋ねた。その結果を図 6 に示す。

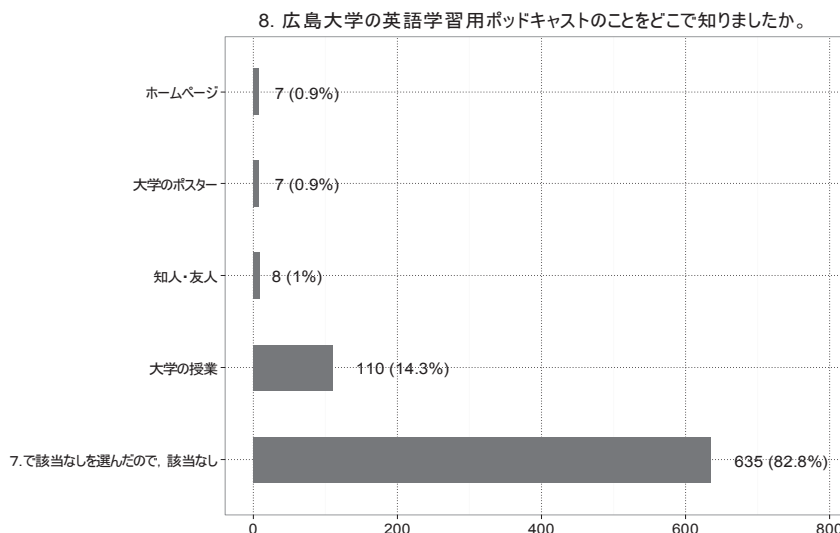


図6 項目 8. の集計結果



「該当なし」を除く回答を多い順にまとめると、「大学の授業」(110名, 14.3%), 「知人・友人」(8名, 1%), 「大学内のポスター」, 「ホームページ」(いずれも7名, 0.9%)となった。広報においては、授業での紹介が最も効果的であると考えられる。続く項目9.では、広島大学のポッドキャストを聴取した経験のある学生に、印象に残っているコンテンツやトピックを尋ねたところ、「バイトの面接」(やさしい英語会話(248)), 「オーストラリアとニュージーランドの野生動物」(やさしい英語会話(256)(257)), 「広島大学の留学生との会話」(異文化ディスカッション), 「オバマ大統領の広島訪問」(English News Weekly(247))など、調査の時点で、比較的最近配信されたコンテンツが多く挙げられた。

最後に、今後英語学習に使ってみたいコンテンツに関する自由記述の集計結果をまとめる。まず、全回答の中で特に頻繁に用いられた語を集計し、視覚的に示すため、ワードクラウドを作成した。作成には、テキストマイニング無料ツール「UserLocal」を用いた。その結果を図7に示す。

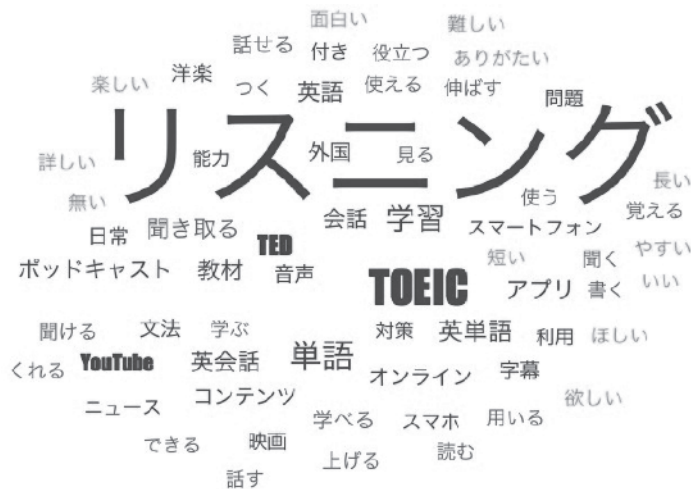


図7 項目10.の集計結果(ワードクラウド)

UserLocalでは、出現頻度とともに、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表す「スコア」が算出される。名詞では「リスニング」(スコア167.62, 出現頻度46)のスコアが圧倒的に高く、リスニング力向上のための教材が最も求められていることがわかる。その他の代表的な語句を挙げると、「TOEIC」(スコア44.27, 出現頻度18), 「単語」(スコア22.85, 出現頻度26), 「英単語」(スコア9.51, 出現頻度6), 「英会話」(スコア8.30, 出現頻度11), 「会話」(スコア5.68, 出現頻度20), 「アプリ」(スコア7.04, 出現頻度36), 「ポッドキャスト」(スコア5.60, 出現頻度8), 「字幕」(スコア3.19, 出現頻度5)等があった。また、既存のコンテンツとして「TED」(スコア9.04, 出現頻度13), 「YouTube」(スコア3.50, 出現頻度5)等が目立った。動詞や形容詞は、特にスコアの高い語句は見られなかったものの、「聞き取る」(スコア3.00, 出現頻度3), 「話せる」(スコア1.16, 出現頻度4)など、名詞の「リスニング」, 「英会話」等と関連する語が比較的高い数値となった。

上記のスコアが高かった語句のうち「リスニング」, 「単語」, 「会話」のキーワードを中心とした具体的な回答をまとめる。まず「リスニング」関連では「日常会話のリスニング練習」, 「TOEIC



のリスニング対策のアプリ]、「リスニングの速度調整ができるアプリ」、「文法を学びながら同時にリスニングも行えるもの」、「映画のリスニング」などの回答が見られた。「単語」関連では「スマホでできる単語アプリ」、「オンライン英単語を iPhone 対応にして欲しい」など、授業で利用している WBT 教材を含めてスマートフォン対応のアプリを求めるものが比較的多く(11件)、「音声つきの単語と文」、「一問一答形式の英単語学習」、「日常会話や医学関連の単語など」などの回答が挙げられた。「会話」関連では「外国の人と会話できるツールを利用したい」、「AI と英会話」など、実際の会話練習を求める意見(7件。これ以外に「レアジョブ」のように、オンライン英会話の具体的なサービス名を記したのものもあった)が多く、その他「リスニング」でも挙げられたとおり、日常会話を通じたリスニング練習を求める意見も見られた。ただ、1件ではあるが「オンラインコンテンツは利用せず、普通に紙のプリントや教科書で勉強する方が自分に合っている」という意見も挙げられた。デジタル機器を利用した英語学習は効率性が高いと考えられる反面、従来どおり紙媒体での学習を好む学生の存在にも留意しておく必要がある。

## 5. まとめと今後の課題

本調査の結果に関するまとめと考察を以下に記す。

- ・ 広島大学の1年生において、ノートパソコンやスマートフォンの高い普及率が確認された。CALL および MALL を利用した自学自習のインフラは十分に整備されていると言える。
- ・ 一方、デジタル機器を活用した自主的な英語学習を行っている学生は全体の22%に留まり、広島大学で開発されている英語学習用ポッドキャストも積極的に利用されているとは言い難い(3.5%)。しかし日常的に使われる英語を題材としたリスニング教材への需要が特に高い結果となったことを受けて、授業等を通じた積極的な働きかけや、学習者各自のレベルに適した教材を紹介する必要がある。

最後に、今後の課題を以下に記す。

- ・ 学内で使用されている WBT 教材を、スマートフォンに対応させる必要がある。とりわけ「オンライン単語学習」はパソコンでの利用を前提としており、スマートフォンでは利用できないため、対応を急ぐ必要がある。
- ・ 本学のポッドキャストを、授業等を通じてより積極的に宣伝する必要がある。また、利用者の利便性を高めるため、SNS や動画投稿サイトなど、多様なメディアに対応させる。
- ・ ポッドキャストを始め、デジタル機器で利用できる教材を積極的に利用させるための仕組みづくりを行う。このためには、学生各自のレベルと到達目標に対応した自学自習用教材を選定し、紹介することが効果的であろう。例えば、オンライン教材やアプリによる自学自習の成果をeポートフォリオにより可視化するとともに、授業との連動を図るのも、一つの可能性として考えられる。

**付記** 本研究は JSPS 科研費 基盤研究 (B) 16H03450 による研究成果の一部である。本研究の成果は、広島大学外国語教育研究センター「新カリキュラムにともなう学生の英語力向上ワーキンググループ」(榎田一路, 上西幸治, 鬼田崇作, 草薙邦広, 阪上辰也, 田北冬子, 達川奎三, 森田光宏, 山本五郎, 吉川りさ)の活動の一端によるものである。

## 注

- 1) Hiroshima University's English Podcast は、外国語教育研究センターの Joe Lauer 准教授による英語学習用ポッドキャストで、「やさしい英語会話」、「異文化ディスカッション」、「ドラマで英語を学ぼう」、「アメリカ探求の旅」、「文化警察 24 時」、「Joe のなるほど! 英文法」といった番組が配信されている。English News Weekly は外国語教育研究センターの Jaime Selwood 特任講師が制作している時事英語番組で、同氏はこの他に English News Monthly も配信している。
- 2) 706 本の内訳は、Hiroshima University's English Podcast が<sup>3</sup> 417 本、English News Weekly が<sup>3</sup> 274 本、English News Monthly が<sup>3</sup> 15 本である。
- 3) 「ぎゅっと e」は、広島市立大学で開発され、北辰映電株式会社（広島市）から販売されている e ラーニング英語教材である。「サッと英作!」は、安田女子大学で開発され、同じく北辰映電株式会社から提供されている WBT システム「YASUDA SYSTEM」の一部で、和文英訳問題や英文並べ替え問題を作成できる。「オンライン単語学習」は、2001 年度に外国語教育研究センターの前身である情報メディア教育研究センター（外国語教育研究系）の助成を受けて開発された、オンライン自学自習型語彙学習教材システム（VP システム）をベースにしている。現在、「オンライン単語学習」の教材コンテンツとして主に用いられているのは、「コミュニケーション基礎 I・II」用に外国語教育研究センターで開発された「広大スタンダード 6000 語彙リスト」（HiroTan）である。
- 4) Selwood (2015) では、本学学生 262 名を対象とした、スマートフォンの普及率に関する調査が実施され、本稿とほぼ同様の結果（95%）が報告されている。

## 参考文献

- Selwood, J. (2015). Going paperless in the classroom with mobile devices: Pitfalls and benefits. *Hiroshima Studies in Language and Language Education* 18, 165-177.
- 榎田一路・前田啓朗・磯田貴道・田頭憲二 (2006). 「広島大学キャンパス・ユビキタス・プロジェクトにかかる英語授業の実践 (その 1)」『広島外国語教育研究』 9, 115-125.
- 榎田一路・前田啓朗・磯田貴道・田頭憲二 (2007). 「広島大学キャンパス・ユビキタス・プロジェクトにかかる英語授業の実践 (その 2)」『広島外国語教育研究』 10, 85-95.
- 榎田一路・前田啓朗・磯田貴道・田頭憲二 (2008). 「広島大学キャンパス・ユビキタス・プロジェクトにかかる英語授業の実践 (その 3)」『広島外国語教育研究』 11, 83-93.
- 榎田一路・前田啓朗・磯田貴道・田頭憲二 (2009). 「広島大学キャンパス・ユビキタス・プロジェクトにかかる英語授業の実践 (その 4)」『広島外国語教育研究』 12, 95-104.
- 榎田一路 (2008). 「ポッドキャストを英語学習に利用する上での予備調査とその考察：購読型教材配信によるモバイル英語学習システムの構築に向けて」『広島外国語教育研究』 11, 69-81.
- 榎田一路 (2016). 「必携化ノートパソコンによる普通教室での CALL 環境構築の試み」『広島外国語教育研究』 19, 29-41.
- テキストマイニング無料ツール「UserLocal」<<http://textmining.userlocal.jp/>>.

## [Appendix]

### アンケート項目

2. 次に挙げたデジタル機器について、あなたが所有しているものにチェックをしてください。(複数回答可)
- ノートパソコン (MacBook シリーズ, Surface など含む)
  - スマートフォン (iPhone, Android スマホなど)
  - タブレット (iPad, Android タブレットなど)
  - 携帯音楽プレーヤー (Walkman, iPod など)
3. あなたは、自分の所有しているデジタル機器を利用した英語学習を行っていますか。(ここでは、ぎゅっと e, オンライン単語学習, サッと英作のような、授業で利用している教材は含みません)
- はい
  - いいえ
4. あなたは、英語学習のためにどのようなオンラインコンテンツやアプリを使っていますか。自由に記してください。(例: TED, YouTube, ポッドキャストなど。3. で「いいえ」を選んだ場合は、特になし、と書いてください)
5. あなたが英語学習のために使っているデジタル機器にチェックをしてください。(複数回答可)
- ノートパソコン
  - スマートフォン
  - タブレット
  - 携帯音楽プレーヤー
  - 3. で「いいえ」を選んだので、該当なし
6. あなたは、週にどのぐらいの時間、デジタル機器を使った英語学習をしていますか。(例: 月に1時間の場合は週に15分とします)
- 10分未満
  - 10分～20分未満
  - 20分～30分未満
  - 30分～40分未満
  - 40分～50分未満
  - 50分～1時間未満
  - 1時間以上
  - 3. で「いいえ」を選んだので、該当なし
7. あなたは、広島大学の英語学習用ポッドキャストを知っていますか。
- 知っていて、現在利用している
  - 知っているが、利用していない
  - 知らない

8. 広島大学の英語学習用ポッドキャストのことをどこで知りましたか。

大学の授業

大学内のポスター

ホームページ

友人，知人から

7. で「知らない」を選んだので，該当なし

9. あなたが聞いた中で，印象に残っているコンテンツやトピックは何ですか。自由に記してください。(7. で「知らない」を選んだ場合は，特になし，と書いてください)

10. あなたは，英語学習のためにどのようなオンラインコンテンツやアプリを使ってみたいですか。また，どのような内容のものを学習したいですか。自由に記してください。(未回答のままでは送信ができないので，必ず記入してください。何もない場合は，特になし，と書いてください)

## ABSTRACT

### **How Personal Digital Devices Are Used for Learning English at Hiroshima University**

Kazumichi ENOKIDA

Mitsuhiro MORITA

Tatsuya SAKAUE

Shusaku KIDA

Institute for Foreign Language Research and Education

Hiroshima University

The prevalence of personal digital devices, such as personal computers, smartphones, and tablets, has enabled students and teachers to utilize a tremendous amount of online learning materials and resources available anytime and anywhere. In English education at the tertiary level, active exploitations of these digital devices outside of the classroom would be highly beneficial in providing learners with more opportunities to improve their English proficiency. Hiroshima University has been implementing an English education project in which in-class activities are combined with a variety of WBT (Web-Based Training) materials to be learned outside of school. It has also been developing and delivering its original English podcasts for self-learning on a weekly basis. In 2015, the university launched a BYOL (Bring Your Own Laptop) policy, which is expected to promote learning by using these lightweight devices.

In this paper, we report on a questionnaire regarding the penetration rates of digital devices and the popularity of English self-learning using personal mobile devices. The survey was conducted on 1,000 first-year students at Hiroshima University. The number of valid responses was 767. It was found that there are high penetration rates of laptop computers (99.5%) and smartphones (94.3%), while only 22% of the respondents are using their personal digital devices for English learning, and 3.5% of them are actually listening to Hiroshima University's podcasts. With better publicity, the number of podcast listeners can be expected to increase in the near future because of the students' high demands for online listening materials to learn daily English conversation.